

鳥海イヌワシみらい館通信

Vol,46 2023年 春夏号



鳥海イヌワシみらい館
マスコットキャラクター
「ワッシーくん」



特集「”花の山”鳥海山と植物学者」
とびしまんちゅ流鳥見のススメ⑤「記憶より記録」

「カワセミ」5月 山形県鶴岡市 撮影：宇佐美様

“花の山”鳥海山と植物学者

牧野富太郎・小泉源一・川上瀧彌^{たきや}

高知県出身の植物学者、牧野富太郎博士は多くの山野草の発見・命名で知られています。1891年頃より植物採集のため日本各地を廻り、山形県にも採集のため訪れています。また同じ時代に活躍した山形県米沢市出身の小泉源一博士、酒田市出身の川上瀧彌も我が国の植物学の発展に大きな功績を残しました。

日本の植物学黎明期を支えた偉人たちを、ゆかりの植物とエピソードとともに紹介します。

参考:『鳥海山・花図鑑』斎藤政広 『椰子の葉隠』川上瀧彌 『Galium属三種ノ記』奥山春季 『故農学士川上瀧弥君略伝』宮部金吾
『小泉源一博士の訃に接して』久内清孝
協力:東京都立大学・牧野標本館 山形県立博物館 京都大学大学文書館



「鳥海山にて牧野富太郎博士」山形県立博物館所蔵

牧野富太郎 (1862-1957)

「草を褥しよに木の根を枕 花と恋して九十年」
(博士による都々逸)

高知県出身。それまで海外の学者にたよっていた新種発表を、初めて日本人の手で行った。博士による新種記載は2500種を超える。山形県にも植物採集のため滞在した。誕生日の4月24日は「植物学の日」として記念日に制定されている。



「鳥海山 牧野博士指導講習会」
(1930年8月9日)

鳥海湖付近にて。後列中央で白いハットを被るのが牧野博士。“好きな植物たちに会うのだから”と正装で採集を行った。写真には初代山形県立博物館館長となる結城嘉美氏など山形県内の研究者たちが写っている。

酒田市鳥海山麓の「オククルマムグラ」

和名: オククルマムグラ

1892年に酒田市(旧八幡町)で佐藤泉氏(観音寺村長)によって採集された標本。この植物標本は当初「クルマムグラ」とされていましたが、1935年に奥山春季博士により、1901年に朝鮮半島でコマロフ博士(ロシアの植物学者)が採集・新種発表したものと同じであるとして、和名を「オククルマムグラ」とされました。寒冷地域の個体が模式的であり温暖地域に自生するものとは地域差があるとしています。



(東京都立大学 牧野標本館所蔵)



(写真: 京都大学大学文書館)

小泉源一 (1883-1953)

米沢市出身の植物学者。札幌農学校(現・北海道大学)を経て東京帝国大学(現・東京大学)で松村任三博士に師事。小石川植物園そばの牧野邸に下宿しながら学ぶ。ミクロネシア、マーシャル諸島を調査し、帰国後1919年に京都大学植物学教室を創立、のちに教授となる。1944年に京都大学を退任。1953年に米沢市の自宅にて死去。牧野博士とともに我が国の植物分類学に大きな功績を残した。

鳥海山産が基準標本! 「オクキタアザミ」

和名: オクキタアザミ

1903年に鳥海山で小泉源一博士によって採集・命名されました。当初、鳥海山固有種と考えられていましたが、のちに岩手県の焼石岳でも発見されました。アザミ属ではなくトウヒレン属のなかまです。鳥海山では8~9月に見られます。



「オクキタアザミ」撮影: 斎藤政広



川上瀧彌 (1871-1915)

酒田市(旧松山町)出身。札幌農学校で宮部金吾博士に師事。阿寒湖の「マリモ」の発見と和名の命名、キリに見られた病気“桐樹天狗巣病”などの研究で知られる。日本統治時代の台湾の動植物などを研究し、現在の台湾国立博物館の初代館長を務めた。宮部博士によれば、“常に修養を怠らず、誠実で篤厚な人柄で友情に富み、川上瀧彌を悪く言う人はいなかった”と伝えている。過労により台湾にて死去。享年44歳。

川上瀧彌が発見!

鳥海山の「ミヤマアカバナ」

和名: ミヤマアカバナ

1894年に川上瀧彌によって鳥海山で採集され、和名が付けられました。鳥海山の固有種ではありませんが、当時我が国では初めての発見でした。鳥海山では7~8月に見ることができます。



「ミヤマアカバナ」撮影: 斎藤政広

利尻島に咲く「リンドウ」

和名: リシリリンドウ

現学名: *Gentiana jamesii* Hemsl

鳥海山に自生する植物ではありませんが、川上瀧彌によって1899年北海道の利尻島で採集されました。別名「クモマリンドウ・カワカミリンドウ」(タイプ学名: *Gentiana nipponica* Maxim. var. *kawakamii* Makino)。川上瀧彌が現地採集した標本を送り、牧野博士らによって分類され名前が付けられました。他にもミヤマオグルマなど、川上瀧彌と牧野博士らによって新種として記載された植物が多くあります。



(東京都立大学 牧野標本館所蔵)

小泉源一博士も牧野邸に下宿しながら東京大学で学び、牧野博士の次女・鶴代氏が5歳のころに、小泉博士によく遊んでもらっていたとエピソードを伝えています。川上瀧彌は寄稿した「植物学雑誌(明治28年発行)内の-荘内産顕花植物-」で牧野博士に「…又牧野富太郎氏ハ予カ質疑ニ対シ懇教ヲ與ヘラレタルハ共ニ深く感謝スル所ナリ」と述べています。

鳥海山は花の山としても知られ、私たちを楽しませてくれますが、我が国の植物学の先駆者たちによって明らかになったものが多くあります。これからはじまる夏山シーズン、路傍の草花樹木たちによって多くの生き物たちが支えられていることも意識して楽しんでいただければ幸いです。

庄内の動物情報コーナー

庄内地方のソメイヨシノの開花は観測史上最も早く、4月の上旬には各地満開になりました。ほかの植物についても開花時期がずれることで、それらの植物を必要とする生物たちへの影響が気になります。しかし標高の高い当館周辺は平年より気温低めの連休に感じました。皆さんのお住いの地域の自然情報をmoukin@raptor-c.comまでお寄せください。



2023年1月「ハクガン」酒田市
今シーズンはガン類が多く観察された当たり年でした。多くの人に問合せをいただきました。例年あまり見ることが多くなかったようで「何の鳥だ？」と思われた方が多かったようです。
撮影：とし様



2023/3月「コチドリ」鶴岡市
雪解けが早かった庄内地方では、早くも春の鳥たちが訪れました。穏やかな川面に写る自分の姿を、「エサをくわえた生意気なヤツ！」と覗き込んで・・・違いますね。
撮影：毛呂様



2023/3月「イタチ」遊佐町
岩場の間をチョロチョロと走り回っていたイタチ。隙間を利用して出たり入ったり、そこは天然のアスレチック。
撮影：渡会様



2023/3月「クジャクチョウ」遊佐町
大きくて美しい目玉模様のこのチョウは、東北地方や高山などの寒い気候を好むチョウです。この時期は越冬個体です。ピールの原料ホップが大好物。
撮影：渡会様



2023/3月「タカブシギ」酒田市
オオタカやクマタカなどにみられる横縞斑点模様を「鷹斑(たかふ)」と言います。このシギは正にその鷹斑が翼に！
撮影：佐々木真一様



2023/4月「コマドリ」酒田市
庄内地域は4月下旬からGW前後に通過していきます。「ヒヒ〜ん」というビブラートを効かせた鳴き声は見事で、日本三鳴鳥に数えられます。
撮影：齋藤修様

全国の動物情報コーナー



2023/5月「ミサゴ(死骸)」遊佐町
知らせを受けて向かった養魚場で、1羽のミサゴが鳥よけのテグスに絡まって死亡していました。野生動物たちが安心して暮らせる環境になることを願わずにいられません。
撮影：本間憲一



2023/5月「ツキノワグマ」酒田市
堂々とのしのし歩くクマ。「だってここは俺の庭なんだぜ？」山菜採りもトレッキングも、適切な準備と心構えで安全に！
撮影：萩田小夏



2023/3月「アリスイ」神奈川県大磯町
学名「Jynx」は鳴き声に由来し、英語のジnkスの由来になったそうです。アリスイ自体不吉な鳥とされ、ジnkスも本当は「不吉・不運」という意味なのだそう。
撮影：こまたん金子様

イベント開催報告

○令和4年度 愛鳥週間ポスターコンクール入賞作品展

5月1日(月)～7日(日)までの期間、昨年度に受賞が決まった愛鳥週間ポスター作品の巡回展示を行いました。

日本での愛鳥週間は毎年5月10日～16日までの期間となっており、野鳥保護について啓発するために定められました。

山形県では山形県知事賞、東北地方環境事務所長賞、山形県教育長賞などのほか、奨励賞など合計33作品が選ばれました。猛禽類を描いた作品もいくつかあり、我々スタッフも良く見て描かれているなど関心しました。

今回初めてゴールデンウィーク期間中の展示という事もあり、多くの来館者が見ていってくれました。ご来場いただいた皆さんありがとうございました。引き続き山形県内で巡回されますので、お近くで開催の際はぜひ展示会場まで足をお運びいただければと思います。



○ゴールデンウィーク「家紋エコバッグ作り」

5月3日(水)～7日(日)までのゴールデンウィーク期間に、「家紋エコバッグ作り」を開催しました。

”家紋”と聞くと、「先祖代々受け継がれてきたもの」ということから、襟を正して参加した人が多かったようですが、実はとてもカジュアルに考えても問題ないのです。江戸時代には”紋切あそび”といって、切り紙で紋様を作って遊んでいました。このイベントでは60種ほどの紋切型を用意して提供しました。

エコマークの付いた環境にやさしいエコバッグをベース素材として使い、切り抜いた紋様を転写しました。また染料は鳥海山に自生している5月の樹木草花を採取して煮だして染料をとりました。媒染液を3種類用意し、それぞれどう色が変化するのも楽しみました。

驚いたのは”ハウチワカエデの葉”を煮だしてつくった黄色い染液は、鉄媒染によって濃い紺色に変化し、染液の色と染がった布との色の違いに参加者も驚いていました。タイトルに物々しさが感じられ敬遠された人も多かったようですが、やってみるととっても楽しかったようです。

参加してくれた皆さん、協力いただいたスタッフの皆さんありがとうございました。また夏に開催できればと思います。



○滋賀県伊吹山イヌワシの育雛ライブ映像を配信中

4月1日より、Youtubeにてライブ配信が開始された「滋賀県伊吹山のイヌワシの子育て生中継」映像を、配信者であるEAGLETOFFICE(須藤一成代表)より許可をいただき、館内放映を行っています。

滋賀県の伊吹山は、イヌワシが生息する山として全国的にも有名ですが、近年観察者が集まる状況が続いており、観察ポイントの環境の悪化等、イヌワシの繁殖への影響が懸念されています。これまで生息地の保護のために、一般に公開されてこなかったイヌワシの子育てを配信に踏み切ったのは、リモートでイヌワシの育雛の様子を観察してもらうことで、影響を軽減させたいといった目的もあります。

イヌワシに限らず、鳥類全般に共通することですが、育雛中の鳥の巣に故意に近付いたりしないようにお願いします。このように配信を実現させた皆さんの努力を水の泡としないためにも、視聴者のみなさんでイヌワシの生態をより深く知っていただくことが、保護・普及啓発につながります。放映の期限は幼鳥が巣立つまでの期間となっています。今回配信の放映に同意くださった須藤一成代表にこの場を借りて御礼申し上げます。



"とびしまんちゅ流"鳥見のススメ



楽しく、そしてより良い鳥見をするための「小さな親切、大きなお世話」な”ひとり言”です(^; Have a nice Birding!

第5回「記憶より記録」

私が幼少の頃の人気のスポーツと言えば野球で、ホームランをバンバン打ち、世界のホームラン王になった王貞治選手や、派手なパフォーマンスで人々の心を魅了したミスタージャイアンツの長嶋茂雄選手がいた。王選手の「記録の王」に対して、長嶋選手は「記憶の長嶋」と言われた。

野鳥の世界の「記憶」と「記録」はどうだろう？楽しい鳥見の思い出……「あー、楽しかった」だけでも悪くはないが、それで終わってしまうと、少なくとも現状ではその楽しい記憶を今後も増やし続けることはできないだろう。自然環境は著しく悪化していくのが常で、何か手立てを打たないと気づいたときにはもう野鳥は減っていて、楽しい思い出を作ることはできなくなるからだ。

では、楽しい思い出作りを続けていくためにはどうすればいいのか？答えは簡単！野鳥を「保護」すればいい！では、野鳥を保護するにはどうすればいいのか？まずは「記録をつける」ことが最も大事。いつ、どこで何を見たのか？数は？行動は？どんな鳥がどこにどれくらいいるのかわからないと現状を把握できず、対応のしようもない。観察記録を積み重ねていくことで初めて現状を把握でき、保護へとつながり、しいては楽しい思い出づくりも続けられるというものだ。しかし、記録を積み重ねていくことだけでもまだ足りない！その記録を公表し世間に知ってもらわなければ、せっかくの記録も埋もれてしまい、保護へはつながらない。身近なところでは、ブログやSNSで発信することも公表のひとつだろう(ただし、発信する際はそれなりの注意が必要)。日本野鳥の会会員の場合は、会報やWEBサイトに「野鳥情報」コーナーがあるので、それらに投稿するのもひとつの手だ。



記録 → 公表

①これまで通りカメラやレコーダー、ノート等で記録する。

②ブログ、SNSの他、WEBサイトでも公表できる！その人に合った使いやすいサイトや媒体を選びましょう。

また、最近はバードリサーチやeBirdといったWEBサイトで観察記録を投稿し公表する方法もある。支部報の野鳥観察情報は年に数回程度しか掲載されず、閲覧は会員限定。一方で、バードリサーチやeBirdといったWEBサイトは情報をすぐ上げられ、不特定多数の人が閲覧する。どちらも一長一短はあるだろう。

ということで、結論は野鳥の世界は「記憶」より「記録」だ！

えっ？なに？記憶の方が優先すっだい？……ほいな人は、ぜひ、おらいのツアーさ出らんねのったなあ！おもしろいよ(^)/



築川 堅治 (やながわ けんじ)
日本野鳥の会山形県前支部長。
中学二年生よりバードウォッチングを始め、現在はバードウォッチング・ツアーガイドや鳥類調査などを行っている。ライフワークは「飛鳥」。自称”とびしまんちゅ”春秋の渡りの時期を中心に年間約70日間、飛鳥に滞在し飛鳥の野鳥を調べている。著書「日本の離島の野鳥①飛鳥」(わたりがらす出版)



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

普及啓発担当

発行が遅くなりすみませんでした！山形県の植物学の偉人たちをぜひ知ってくださいね！(本)

希少種保護増殖等専門員

蜚舞う季節。闇にたゆたう小さな光の教々が、ゆるく運動した律動で明滅する様を眺めている時、寄せては返す汀の波をぼんやりと思ひ浮かべます。穏やかな暗闇から町に戻ると、音も光も、いつもより鮮明に刺さってきて、すっかり野生動物の気分です。(秋)

事務局



鳥海南麓自然保護官

田植えが終わったと思ったら、山も田んぼもたちまち緑が濃くなってきました。元気が出る季節です。(澤)

編集後記&施設情報 鳥海イヌワシみらい館 6月~8月の開館情報

開館時間・・・9:00~16:30

入館料・・・無料

休館日・・・無し

臨時休館日はホームページにてお知らせします。

ホームページアドレス : <http://www.raptor-c.com/>

<https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor>

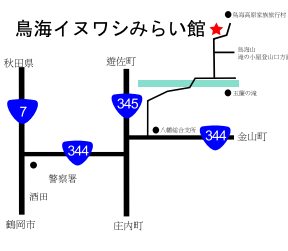
猛禽類保護センター

〒999-8207

山形県酒田市草津湯ノ台71-1

TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

E-mail: moukin@raptor-c.com



鳥海イヌワシみらい館通信
Vol.46 春夏号

発行: 猛禽類保護センター活用協議会
(事務局 鳥海イヌワシみらい館内)